

部局名	教育委員会	所属名	指導課	所属長名	三橋 勝則	電 話	481-0301
-----	-------	-----	-----	------	-------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード	3387		事務事業名称	教育振興事業					短縮コード	経常	3387	臨時	
予算区分	会計	01	一般会計	款	10	教育費	項	01	教育総務費	目	03	教育振興費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		地方教育行政の組織及び運営に関する法律第45条、教育公務員特例法第21条						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
①子供模擬議会は、市内児童生徒の議会を学習する体験学習として平成3年から実施 ②郷土読本は、小学校3、4年社会科で学習する郷土の指導のため昭和43年に初版発行 ③生徒指導主任会議は、生徒指導担当者の指導力と資質の向上を図るため昭和50年より実施 ④各種会議は、教職員の職能と識見の向上のために昭和53年度から開催 ⑤学校要請訪問は、各学校における教科・領域の研究実践を充実させることにより、教師の指導力を高めるために実施。⑥教育研究会補助金については、教職員の自主的な研修団体である教育研究会を補助し、研修機会を充実させるため実施。 ⑦理科センターを市内の学校に指定し、教職員の研修の機会を確保している。 ⑧外国人児童生徒教育相談員については、市内在住の外国人児童生徒を学校に受け入れるため開始した。 ⑨指導課での教育相談は、教育関係の相談機会を増やすため開始した。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測 ①他市町村でも同様な取り組みが増えている。 ②郷土意識の重要性が認識されてきている。 ③生徒指導の重要性が高まってきている。 ④学校教育への課題が多様化している。 ⑤夏季休業中の研修体制の充実が図られている。 ⑥⑦新しい教育課題に対応できるよう教職員の資質の向上が必要である。 ⑧外国人児童生徒は増加傾向である。 ⑨相談内容の複雑化・多様化				総合計画の施策体系	5本の柱（章）	02	人間尊重都市をめざして						
					大項目（節）	01	学校教育						
					中 項 目	02	義務教育						
					小項目（施策）	02	教育内容の充実						
					細 項 目	01	学習・生徒指導の充実						
03	心の教育の推進												
				実施計画の計画事業									
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		～		計画事業費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	①市内公私立中学校3年生 小学校6年生 ②市内各小中学校生徒指導主任 ③市内小中学校教職員 ④小中学校教職員 ⑤教職員 ⑥教職員 ⑦外国人児童生徒 ⑧児童生徒及び保護者						
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成19年度に実際に行ったこと： ①子供模擬議会開催 ②「わたしたちの八千代市」の作成 ③生徒指導主任会開催 ④主催事業開催（10事業） ⑤学校要請訪問の実施 ⑥教育研究会運営委員会参加・教育研究会への補助金交付 ⑦理科事故防止研修会の実施 ⑧外国人児童生徒教育相談員の派遣 ⑨来庁者との面談及び電話相談						
	※平成20年度に計画していること： 19年と同様						
意図 （何を狙っているのか）	①市内児童生徒が市政議会に関する関心を高める。 ②小学校3・4年生における社会科教科書に代わる副読本として活用する。 ③指導力及び資質の向上を図る。 ④教職員の資質の向上を図る。 ⑤要請訪問の実施により教職員の教科・領域指導の力量を高める。 ⑥教職員の研修の充実を図る。 ⑦教職員の研修の充実を図る。 ⑧日本での生活への不安を軽減する。 ⑨相談者の悩みやストレスの解消や緩和。						
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	入力対象外						
区 分			単位	18年度	19年度		20年度
				実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	市内小学校3年生	人	1,841	2,028	2,032	1,944
	指標2	市内公立中学校3年生	人	1,412	1,389	1,415	1,447
	指標3	市内小学校6年生	人	1,811	1,825	1,841	1,882
活動指標	指標1	子供模擬議会参加児童生徒	人	53	52	52	48
	指標2	郷土読本の配布冊数	冊	2,100	2,300	2,300	2,300
	指標3	生徒指導主任・生徒指導担当職員数	人	32	33	33	33
成果指標	指標1	子供模擬議会参加児童生徒数/小学校6年生中学校3年生数	人	1.8	1.8	1.6	1.4
	指標2	郷土読本の配布冊数/小学校3年	%	100	100	100	100
	指標3						
上位成果指標	指標1						
	指標2						
	指標3						

コード		3387		事務事業名称		教育振興事業		所属名		指導課	
				単位	1 8 年度	1 9 年度			2 0 年度		
					実績	計画	実績		計画		
事業費 (A)	財源内訳	国	千円	0	0	0	0				
		県	千円	0	0	0	0				
		地方債	千円	0	0	0	0				
		一般財源	千円	8, 263	8, 956	8, 444	8, 793				
		その他	千円								
	主な事業費の内訳			子供模擬議会バッチ・郷土読本作成、教育研究会補助金三層研修会学校評議員・外国人児童生徒の教育相談等	子供模擬議会バッチ・郷土読本作成、教育研究会補助金三層研修会学校評議員・外国人児童生徒の教育相談等	子供模擬議会バッチ・郷土読本作成、教育研究会補助金三層研修会学校評議員・外国人児童生徒の教育相談等	子供模擬議会バッチ・郷土読本作成、教育研究会補助金三層研修会学校評議員等・外国人児童生徒の教育相談等				
	人件費 (B)			千円	58, 979. 8	58, 898. 5	56, 950. 2	56, 950. 2			
トータルコスト (A) + (B)			千円	67, 242. 8	67, 854. 5	65, 394. 2	65, 743. 2				

3. 事務事業の評価（SEE）

評価 類型	評価事項		評価区分		理 由					
目的 妥当性	①事業目的が上位の施策に結びついているか？		☒ 結び付いている		上位の施策「学習生徒指導の充実」を推進するために、子ども模擬議会、郷土読本作成、学校要請訪問等の事業を実施し、「心の教育の推進」を推進するために、生徒指導主任会議、外国人児童生徒教育相談員派遣等の事業を実施しており、結びついている。					
			☐ 結び付くが見直しの余地がある							
			☐ 結びつきが弱い・ない							
			☐ 評価対象外事項							
	②すでに所期目的を達成しているか？ ※「達成している」を選んだ場合、⑥に進んでください。		☐ 達成している		学校教育では、毎年児童生徒が進級・進学し、教職員も入れ替わるため、単年度ごとに所期目的を意識した取り組みが必要と考える。					
			☒ 達成していない							
			☐ 評価対象外事項							
	③民営化で目的を達成できるか？ ※民営化・・・事務事業の全部又は一部の実施主体を全面的に民間事業者等に移行すること。 （民間委託は、権限に属する事務事業等を委託することで、民営化とは異なる。）		☐ 可能性はある		本事業は公教育として行われており、民営化にはなじまない。					
			☒ 可能性はない							
			☐ 評価対象外事項							
	④「対象」・「意図」の設定は現状のままで良いか？		☒ 現状のままでよい		初期目的には変更がなく、現状の対象・意図の設定で結果に結びつく。					
			☐ 見直す必要がある							
☐ 評価対象外事項										
有効性・ 効率性	⑤今後、有効性や効率性を向上させる可能性はあるか？ 可能性がある場合は、⑤－２，３を記入する。 可能性がない場合は、理由を記入する。		☐ 有効性向上の可能性はある		外国人児童生徒等教育相談員の活用では、需要は拡大しているが、今年度は国の事業の費用で実施しているため。					
			☐ 効率性向上の可能性はある							
			☐ 両方可能性はある							
			☒ 可能性がない							
	⑤－２ 有効性や効率性を向上させる手段は何か？ 該当する手段を選択し、具体的な方法と得られる効果を記入する。手段が「類似事業との統合・役割見直し」である場合は、該当する類似事業を記入する。		☐ 民間委託等							
			☐ 臨時的任用職員等の活用							
			☐ ＩＴ化等業務プロセスの見直し							
			☐ 受益者負担の見直し							
			☐ 類似事業との統合・役割見直し		類似 事務 事業 名称	1		実施主体 (所管部署)		
			☐ 上記以外の方法			2		実施主体 (所管部署)		
			⑤－３ 推進にあたっての課題はあるか？（一時的な経費増・市民の理解等）		☐ ある					
	☐ ない									

コード	3387	事務事業名称	教育振興事業				所属名	指導課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			社会の中で個性が輝く「人間力」の醸成や、子どもの思考力・表現力・判断力の育成とともに、子ども及び家庭・地域からの教育的ニーズに対応した教育環境の推進を図るために、評価を加えながら事業を実施する。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止								
☐ 休止								
☒ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			事業が多種多様な分野で構成されているため	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☐		
			不 変	☐	☒	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
①参加児童生徒は貴重な体験ができる。 ②郷土読本は大いに活用されている。③生徒指導の重要性が認識されてきている。 ④⑤「確かな学力」の定着「豊かな心」の育成について多くの保護者や市民より要望が出ている。 ⑥教職員の資質の向上は市民の願いであり、教職員が専門的な研修を受けることは児童生徒の健全育成につながる。 ⑦理科の授業数は減少しているが、実験中の事故発生の危険に対し教職員の研修が必要である。 ⑧外国人児童生徒及び保護者だけでなく学校現場からもニーズが高まってきている。									

所属長コメント	教職員の資質の向上のための研修の推進，子供模擬議会や，郷土読本をはじめとする教育振興事業を今後も充実させていきたい。								
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり，現状のまま継続とする。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止									
☐ 休止									
☒ 現状のまま継続									